

昭和女子大学家政 ○猪又美栄子 清水薫 日野伊久子 加藤理子

<目的>衣服の着脱動作は、運動の協応と非常に密接な関係がある。手・指先の運動機能が未発達な幼児や、加齢により運動機能が衰え始めた高齢者にとって、着脱動作は容易ではなく、特にボタン等の衣服の留め具の形式によっては困難さを伴う。したがって、幼児服や高齢者用衣服の設計においては、加齢による手・指先の運動機能の変化に適した着脱形式やボタン・ボタンホールを考慮する必要がある。本研究では、ボタンのかけはずし動作の加齢による変化を明らかにする基礎として、成人のボタンかけはずし動作の分析を行なった。

<方法>ボタンのかけはずし動作について、20歳代の右ききの女子53名を被験者とし、着用実験を行なった。実験の要因には、ボタンホールの方向(タテ・ヨコ)と打ち合わせ(右上・左上)を取り上げ、前あきの実験服を作成した。ビデオにより、ボタンのかけはずしの手の動きの観察およびかけはずし動作の所要時間の測定を行なった。手の動きの順序、手くびの回転の様子等からボタンのかけはずし動作の分類を試みた。

<結果>1) ボタンホールの方向がヨコの場合には、全被験者のボタンかけ動作に手くびの回転がみられた。また、左手くびを回転させる者と右手くびを回転させる者の両方が存在した。2) ボタンホールの方向がタテの場合には、ボタンかけ動作に手くびの回転がみられない者や、手くびの回転が小さい者が多かった。3) ボタンかけ動作の所要時間を比較したところ、ボタンホールがヨコで左身頃が上の打ち合わせ(紳士服の打ち合わせ)の場合に時間がかかることがわかった。